

[異常時通報連絡の公表文（様式 1－1）]

伊方発電所 火災報知器の誤動作について

R 6 . 2 . 13

原子力安全対策推進監

電話番号 089-912-2352

[異常の区分]

国への法律に基づく報告対象事象		有		無					
		[評価レベル		－]					
県の公表区分		A		B		C		P P	
外部への放射能の放出・漏えい		有		無					
		[漏えい量		－]					
異常の概要	発生日時	令和6年1月6日8時57分							
	発生場所	1号・2号・3号・共用設備							
		管理区域内		管理区域外					
	種 類	・設備の故障、異常 ・地震、人身事故、その他 ・核物質防護							

[異常の内容]

1 月 6 日(土曜日)9 時 42 分、四国電力株式会社から、別紙のとおり、伊方発電所の異常に係る通報連絡がありました。その概要は、次のとおりです。

- 伊方発電所 3 号機は通常運転中のところ、伊方発電所構内の事務本館に設置する火災感知器が作動し、中央制御室に火災発生を示す信号が発信したことから、9 時 3 分、消防署へ連絡した。
- また、当直員が現場確認を行い、9 時 15 分、炎や発煙等がないことを確認した。
- 現在、火災発生を示す信号が発信した原因を調査中である。
- 本事象によるプラントへの影響及び環境への放射能の影響はない。

[異常の原因及び復旧状況]

1 月 6 日(土曜日)16 時 3 分、四国電力株式会社から、復旧状況等について、次のとおり連絡がありました。

- その後、火災発生を示す信号が発信したエリアの火災感知器（9 個）を取り替え、火災発生を示す信号の再発信がないことから、火災感知器の誤動作と判断し、16 時 0 分、通常状態に復旧した。
- また、9 時 50 分、消防署が現場にて火災ではないことを確認した。

県としては、環境放射線テレメータ装置により、周辺環境に影響のないことを確認しました。

(伊方発電所及び周辺の状況)

[事象発生時の状況]

原子炉の運転状況	1 号機	廃止措置中			
	2 号機	廃止措置中			
	3 号機	運転中（出力 103%）・停止中			
発電所の排気筒・放水口モニタ値の状況		通常値	・	異常値	
周辺環境放射線の状況		通常値	・	異常値	

(参考)

1 国への法律に基づく報告対象事象

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律に基づき、国（原子力規制委員会原子力規制庁等）に対し、一定レベル以上の事故・故障等を報告することが義務付けられている。

国への法律に基づく報告対象事象に該当すれば、国際原子力機関が定めた評価尺度に基づき、7から評価対象外までの9段階の評価レベルが示されるので、異常の程度を判断する目安となる。評価対象外以下のものについては、安全に関係しない事象とされている。

2 県の公表区分

区分	内 容
A	○安全協定書第11条第2項第1号から第10号までに掲げる事態 （放射性物質の放出、原子炉の停止、出力抑制を伴う事故・故障、国への報告対象事象 等） ○社会的影響が大きくなるおそれがあると認められる事態 （大きな地震の発生、救急車の出動要請、異常な音の発生 等） ○その他特に重要と認められる事態
B	○管理区域内の設備の異常 ○発電所の運転・管理に関する重要な計器の機能低下、指示値の有意な変化 ○原子炉施設保安規定の運転上の制限が一時的に満足されないとき ○その他重要と認められる事態
C	○ <u>区分A，B以外の事項</u>
P P	○核物質防護に影響がある事態

3 管理区域内・管理区域外

その場所に立ち入る人の被ばく管理等を適切に実施するため、一定レベル（3月間に1.3ミリシーベルト）を超える被ばくの可能性がある区域を法律で管理区域として定めている。原子炉格納容器内や核燃料、使用済燃料の貯蔵場所、放射性物質を含む一次冷却水の流れている系統の範囲、液体、気体、固体状の放射性廃棄物を貯蔵、処理廃棄する場所等が管理区域に該当する。

異常発生 の場所が管理区域の内か外かによって、異常の程度を判断する目安となる。

伊 方 発 電 所 情 報 (お知らせ)

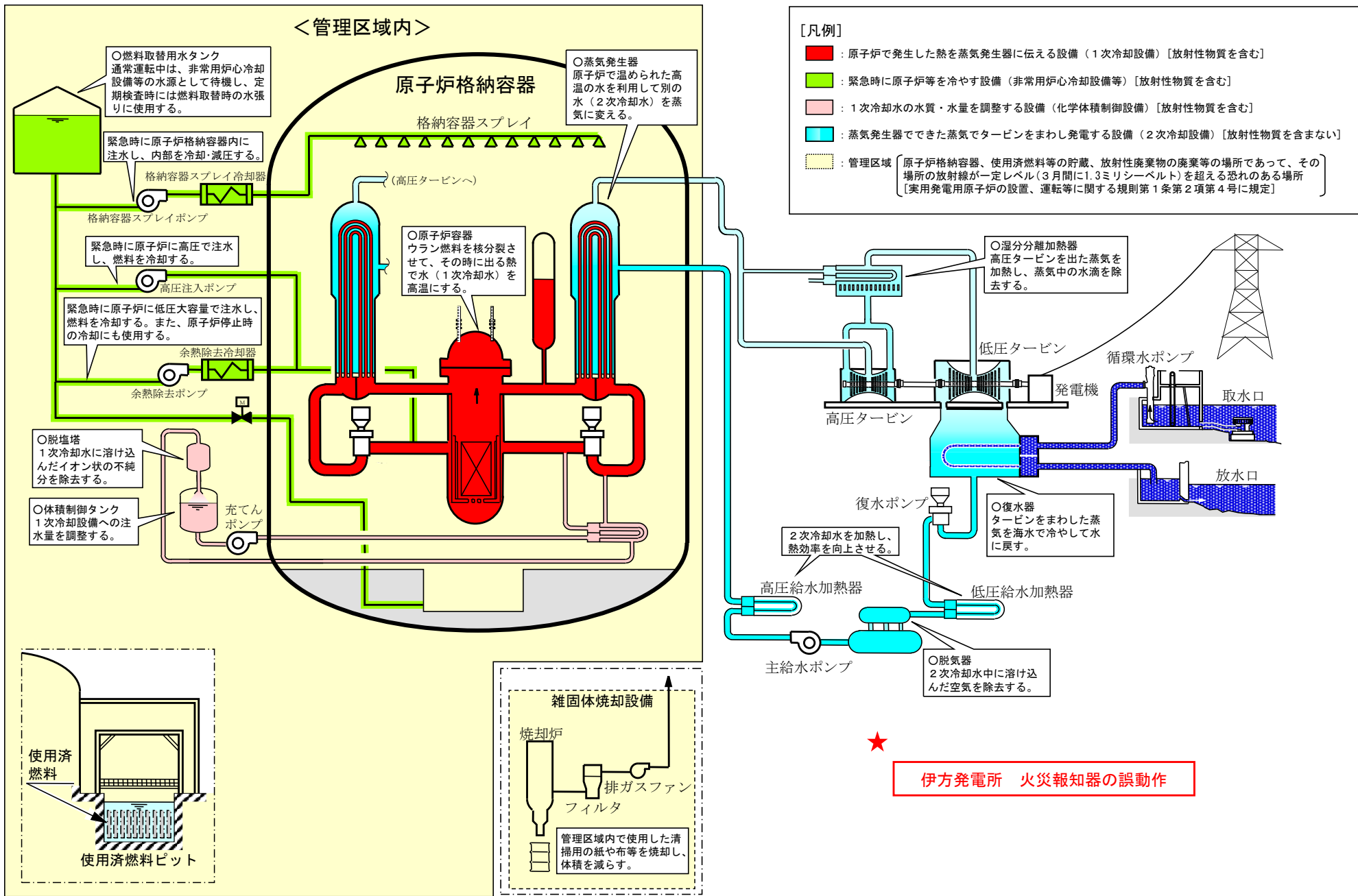
発信年月日		令和6年 1月 6日 (土) 9時 42分		
発 信 者		伊方発電所 大野		
当 該 機	号 機 (定格出力)	1号機	2号機	3号機 (890MW)
	発生時 状 況	廃止措置中	廃止措置中	1. 出力919MWにて (通常運転 ・調整運転・出力上昇・出力降下)中 2. 第一回 定期事業者検査中
発 生 状 況 概 要		設備トラブル ・ 人身事故 ・ 地震 ・ 核物質防護 ・ その他		
		1. 発生日時： 1月 6日 8時 57分 2. 場 所：伊方発電所 事務本館 3. 状 況： 伊方発電所3号機は通常運転中のところ、本日、8時57分、伊方発電所構内の事務本館に設置する火災感知器が作動し、中央制御室に火災発生を示す信号が発信したことから、9時03分、消防署へ連絡しました。 また、当直員が現場確認を行い、9時15分、炎や発煙等がないことを確認しました。 現在、火災発生を示す信号が発信した原因を調査中です。本事象によるプラントへの影響および環境への放射能の影響はありません。		
運転状況		1号機：廃止措置中 2号機：廃止措置中 3号機：(通常運転 ・調整運転・出力上昇・出力降下・定検停止) 中		
備 考				

伊 方 発 電 所 情 報

(お知らせ、第2報)

発信年月日		令和6年 1月 6日 (土) 16時 03分		
発 信 者		伊方発電所 大野		
当 該 機	号 機 (定格出力)	1号機	2号機	3号機 (890MW)
	発生時 状 況	廃止措置中	廃止措置中	1. 出力919MWにて (通常運転 ・調整運転・出力上昇・出力降下)中 2. 第一回 定期事業者検査中
発 生 状 況 概 要		設備トラブル ・ 人身事故 ・ 地震 ・ 核物質防護 ・ その他		
		1. 発生日時： 1月 6日 8時 57分 2. 場 所：伊方発電所 事務本館 3. 状 況： 伊方発電所3号機は通常運転中のところ、本日、8時57分、伊方発電所構内の事務本館に設置する火災感知器が作動し、中央制御室に火災発生を示す信号が発信したことから、9時03分、消防署へ連絡しました。 また、当直員が現場確認を行い、9時15分、炎や発煙等がないことを確認しました。 現在、火災発生を示す信号が発信した原因を調査中です。本事象によるプラントへの影響および環境への放射能の影響はありません。 【第1報にてお知らせ済み】 その後、火災発生を示す信号が発信したエリアの火災感知器(9個)を取り替え、火災発生を示す信号の再発信がないことから、火災感知器の誤動作と判断し、本日16時00分、通常状態に復旧しました。 また、9時50分、消防署が現場にて火災ではないことを確認しました。		
運転状況		1号機：廃止措置中 2号機：廃止措置中 3号機：(通常運転 ・調整運転・出力上昇・出力降下・定検停止)中		
備 考				

伊方発電所 基本系統図



周辺環境放射線調査結果 (県環境放射線テレメータ装置により確認)

令和6年01月06日 (土)

(単位：ナノグレイ／時)

測定局		測定値 (シンチレーション検出器)					平常の変動幅の最大値	
		時刻	08:40	08:50	09:00	09:10	09:20	降雨時 降雨時以外
愛媛県	モニタリングステーション (九町越)		18	18	18	18	18	45 19
	モニタリングポスト伊方越		18	18	18	18	18	52 20
	モニタリングポスト湊浦		24	25	25	24	24	45 25
	モニタリングポスト川永田		25	25	25	25	25	51 26
	モニタリングポスト九町		35	35	35	34	35	55 35
	モニタリングポスト大成		15	15	15	15	15	41 16
	モニタリングポスト豊之浦		25	25	25	25	25	52 26
	モニタリングポスト加周		26	26	26	26	26	60 27
四国電力(株)	モニタリングステーション		17	17	17	17	17	40 18
	モニタリングポストNo. 1		17	17	17	17	17	43 18
	モニタリングポストNo. 2		15	15	15	15	15	42 16
	モニタリングポストNo. 3		13	14	13	14	13	39 15
	モニタリングポストNo. 4		16	16	16	16	16	44 17

(注) 伊方発電所付近に設置しているモニタリングポスト等について記載

○ 降雨の状況：有・~~無~~

○ 伊方発電所の排気筒モニタ等にも異常なかった。

(参考)

- 環境放射線の測定値は、降雨等の気象要因や自然条件の変化等により変動するので、原子力規制庁の「平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料）」に基づき、測定値を「平常の変動幅」と比較して評価しています。
「平常の変動幅」は、過去2年間（令和03、04年度）の測定値を統計処理した幅（平均値±標準偏差の3倍）としており、一般に、測定値が「平常の変動幅」の最大値以下であれば、問題のない測定値と判断されます。
- 環境放射線は線量(グレイ)で表されますが、一般的に、これに0.8を乗じて、人の被ばくの程度を表す線量(シーベルト)に換算しています。
例えば、線量率約20ナノグレイ／時の地点では、1年間に約0.14ミリシーベルト（ミリはナノの100万倍を表す）の自然放射線を受けることとなりますが、これは、胃のX線検診を1回受けた場合の4分の1程度の量です。

(放射線量の例)

